

# Contest

## 【過去の結果発表】

### 2003年民謡アレンジコンテストアジア・日本編 結果発表

ズーラシアンブラス作曲コンテストも2年目を迎え、本年の第1のカテゴリー『民謡アレンジコンテスト アジア・日本編』が行われ、なんと大量、4つの入選作品が選ばれました。

昨年までは、応募者全員のお名前（ペンネーム）と応募作品に対する講評を全て掲載しておりましたが、これらの公表に関しては様々なご意見がありますので、今回より応募者並びに作品講評の掲載は入選者のみとさせていただきます。

応募下さった皆さん本当にありがとうございました。

そして、入選された皆さんおめでとうございます。

4月中旬をメドに ZOORASIAN BRASS Web shop にて販売を開始いたします。

残念ながら、惜しくも入選に至らなかった皆さんも、次回の『オリジナル作曲コンテスト』に再度挑戦してください。(2003/03/28)

#### 01: ぼさのば炭坑節 編曲：石川亮太

試聴は→[こちら](#)

#### 02: ザ・日本民謡セレクション 編曲：高橋宏樹

試聴は→[こちら](#)

#### 03: ソーラン節 編曲：小笠原寿子

試聴は→[こちら](#)

#### 04: ソーラン節幻想曲（金管五重奏のための） 編曲：熱田浩幸

#### 【コメントとプロフィール】

##### 01: ぼさのば炭坑節

盆踊り楽曲界の不動の王者?!炭坑節を、ボサノヴァ風味にアレンジしました。せっかくの編曲コンテストなので、普通ではなく、何か楽しいアイデアをベースにしたい・・・そして思いついたのがこの組み合わせです。炭坑節の哀愁と、ボサノヴァのさわやかさ・お洒落さ。2つの個性のドッキングを楽しんでいただけたらと思います。

演奏に関してですが、リズムを強調するために、チューバが同じ音型を繰り返す形になっていて、ちょっと辛いかもしれません。でも、このリズムがイキイキと演奏されているので、ムードがガラッと変わるのではないかと思います。コードが単純な部分がボサノヴァっぽく聞こえるかどうかは、チューバ次第!!後半にはご褒美も付けておきましたんで、なにとぞ…(笑)

私は今、大学で作曲を学んでいます。しかし、いわゆるアカデミックな現代音楽が苦手で、その手の曲を書くこともほとんどありません。やはり演奏して楽しく、聴いて楽しい、ポジティブなものを伝え合える、そんな音楽を書いていきたいと日々思っています。そんな私にとって、このコンテストはまさに理想そのものです。この曲を通じて、たくさんの方と音楽の楽しさを伝え合えたら最高ですね!!

2003年3月 石川亮太

●石川亮太

1983年生まれ 中学・高校と吹奏楽部に所属(sax) 東京音楽大学 作曲(芸術音楽コース)専攻 2年在学中 管楽器、特にサクスのための曲を多く作曲。主な作品に【地球からの贈り物(かながわ高文連の歌)】

##### 02: ザ・日本民謡セレクション

この曲はもともとリコーダ4重奏のために書いたものでした。アレンジコンテストの募集要項を見つけて「これは使える」と思い、すぐ金管5重奏に書きかえました。

なるべく古臭くない、現代風な響きにしたつもりです。奏者のみなさんが吹いて、少しでも楽しいと思って頂ければ、幸いです。曲は「こきりこ」「五木の子守歌」「八木節」の3曲をセレクトしました。

入選について

入選通知のメールが来た時は、本当に嬉しかったです。とにかくこの曲がいるんなところで活躍してくれる事を心から望んでいます。これからはいろんな事に挑戦していこうと思っています。今回はどうもありがとうございました。

2003年3月 高橋宏樹

●高橋宏樹

平成10年3月 都立北多摩高校 卒業

平成14年3月 パンスクールオブミュージック アレンジ&コンポーズ学科 卒業～これまでの受賞～

2003年度吹奏楽課題曲公募(入賞) 桜島イメージソングコンテスト(最優秀賞) 鳥取民謡アレンジコンテスト(特別賞) 長野信州中野イメージソングコンテスト(優秀賞) 大阪「女のぐち」歌コンテスト(入賞)

##### 03: ソーラン節

入選できて光栄です。ありがとうございました。よく知られている日本民謡のソーラン節を、雰囲気を変えてテンポも少し速めに、編曲してみました。ちょっぴりジャズ風な和音を使っています。あまり細かな指示は書いてありません。元気よく、間違えても気にせずに、勢いで演奏していただけたらと思います。

2003年3月 小笠原寿子

●小笠原寿子

子供のころにピアノに出会い、音楽が大好きになる。 中学、高校では吹奏楽部に所属し打楽器を担当。明治学院大学卒業後、一般企業に勤務。退職後、ピアノ・バーなどでピアノを弾きはじめる。現在、東京芸術大学別科作曲専修2年。

##### 04: ソーラン節幻想曲（金管五重奏のための）

海をイメージできるようにと思い、曲の冒頭は、波が岩礁に打寄せ飛び散る、(東映が東宝映画の始りの映像みたいな)そんな感じが出来ればいいかなと思いました。Trpの掛け合いのような箇所は、ad lib. でいいとおもいます。2回目の入選、大変感激いたしました。

2003年3月 熱田 浩幸

●熱田 浩幸

小学校6年の時、転校生に誘われ合奏部なる部活を初め、そこで始めて吹いたのがメロフォンでした。中学で吹奏楽部に入りTUBAを担当し以来、高校・現在に至るまでTUBA一筋です。中学・高校と特にフィリップジョーンズブラスアンサンブルには憧れたものです。「ディスコキッド」とか「ルパン三世のテーマ」(パン、ジャンの付録)などいまでも覚えています。

#### 【審査員】

中川 喜弘 Trumpet 奏者・アレンジャー

岡田 友弘 指揮者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

小曲 俊之 Trumpet 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

中西 和泉 Trombone 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

佐藤 和彦 Tuba 奏者 ZOORASIAN BRASS OFFICIAL FRIENDS

大塚 治之 ZOORASIAN BRASS プロデューサー

#### 【実演してみました】

今回は、入選者の皆さんが SCORE を早く提出して下さったので、発表前に入選作品全作品を試奏することができました(演奏は ZOORASIAN BRASS Official Friends が担当しました)。初見演奏と言うこともありますが、やはり、MIDI で聴くのと実際に演奏するのでは大違いでした。

石川さんの【ぼさのば炭坑節】は Bossa Nova のイメージで演奏すると、コードが比較的単純なせいか、MIDI に比べかなりサウンドが薄く感じられました。あまり Bossa Nova を意識せず、吹きまくった方が楽しい作品に仕上げられるような印象を受けました(お洒落さは少し無くなりますが)。最もこの点は、審査の段階から審査員の中川喜弘さんが指摘されていました。もともと、どんなに省略した編成でも Guitar のない金管五重奏で Bossa Nova らしく演奏するには無理があるそうです。しかし、視覚的にも楽しく、いろんなシーンでプログラムできそうです。ちなみに審査員の小曲さんは、『冒頭が耳に残るなあ・・・』と言いつつ、冒頭を鼻歌で歌いながら引き上げていきました。

高橋さんの【ザ日本民謡セレクション こきりこ節～五木の子守歌～八木節】は、入賞作品の中で、最も良く響く、完成度の高い作品でした。プレーヤも非常に演奏しやすいと感じたようです。審査員の中西さんによれば、Trombone の休みの少なさについても、思ったほど問題にならないとのこと。ただ、楽曲の構成が聴衆の集中力を必要としますので、どちらかというとホールコンサート向きの曲のように思います。ズーラシアンブラス的に言えば、園内演奏より、弦うさぎとジョイントする『音楽の絵本』コンサートに向いていると思います。

小笠原さんの【ソーラン節】はとても面白いサウンドでした。響きの楽しい作品です。ただ、聴衆の立場で聴いていると、いよいよこれからかな?と言うところで終わってしまう感じがしました。もう少し展開があると更に良かったと思います。演奏者には、冒頭の曲風に『元気良く』と書いてある割に響きが暗いので、『元気良く』が難しい、との感想が多く出ていました。Dynamics や Articulation などが最小限にとどめてある点については、支える側の中低音 Player には戸惑いがあり、乗っかる側のラッパ奏者や指揮者(普通の楽隊はいませんが)には自由な解釈ができるため、比較的好評でした。しかし、これらは初見演奏でない限りは問題ないと思います。

熱田さんの【ソーラン節幻想曲】は、素晴らしくエキゾチックな響きでした。リズムが決まると、とても格好良いです。ただ、実用性の面で、金管五重奏には荷が重いかと思いました。予想以上に各パートがきつくと、もう少し楽に同じような効果が出せるのではないかとというのが演奏者の感想です。意図した響きをきちんと鳴らすには、緻密なアンサンブルが要求されますので、繰り返し練習して、呼吸を合わせる必要があります。

4月中旬には入賞作品の楽譜販売を開始いたしますので、皆さんも是非挑戦してみてください。

(03.03.26 於:相模大野グリーンホール 練習室)

#### 【総評】

今回は非常に力作が多く、審査も意見が分かれました。

入選作品以外にも素晴らしい作品があったのですが、完成度の点で少々疑問がありましたので、そうした作品は入選に至りませんでした。

今回は、全体のレベルが高かったため、審査員の意見もバラバラで、審査員それぞれの視点の違いにより評価も大きく分かれました。

評価が分かれたことを反映するかのように、入選作品もエキゾチックなもの、構成力豊かなもの、和声の美しいもの、楽しいものとバラエティーに富んだ内容となりました。

また、以前のように編曲者の独りよがりによる、無駄に難しく、演奏困難な割に効果が薄いと言った現象もほとんど無くなりました。

傾向として、音楽的なルールに忠実な作品ほど、意識が聴衆ではなく、作り手に向かっているようです。もう少し、音楽的な捉え方だけでなく、その楽曲がどのようなシーンで演奏されるのかを想像して見て欲しいと思うのです。良い曲なのですが、どのようなシチュエーションで演奏して良いのか分からない作品が多く見受けられました。シチュエーションごとに異なる聴衆がそれぞれに納得するものであれば、多少の音楽的な捉破りもありだと思のですが・・・。

「ぼさのば炭坑節」が平均的に高い評価を得たのは、ポピュラー系だったからなのではなく、意識が作り手ではなく、聴衆に向かっていたことが大きな要因であったと思われる。

昨年までは、polyphony や homophony など音楽的なルールと金管楽器の特性理解が入選の大きな基準でしたが、作曲コンテストも2年目を迎え、レベルも高くなってきましたので、これからはそれらを踏襲した上で更に一歩踏み込んだ、音楽としての魅力が評価の対象になりそうです。